

東京都市計画道路 放射第17号線
(大田区大森南一丁目
～西糀谷二丁目)

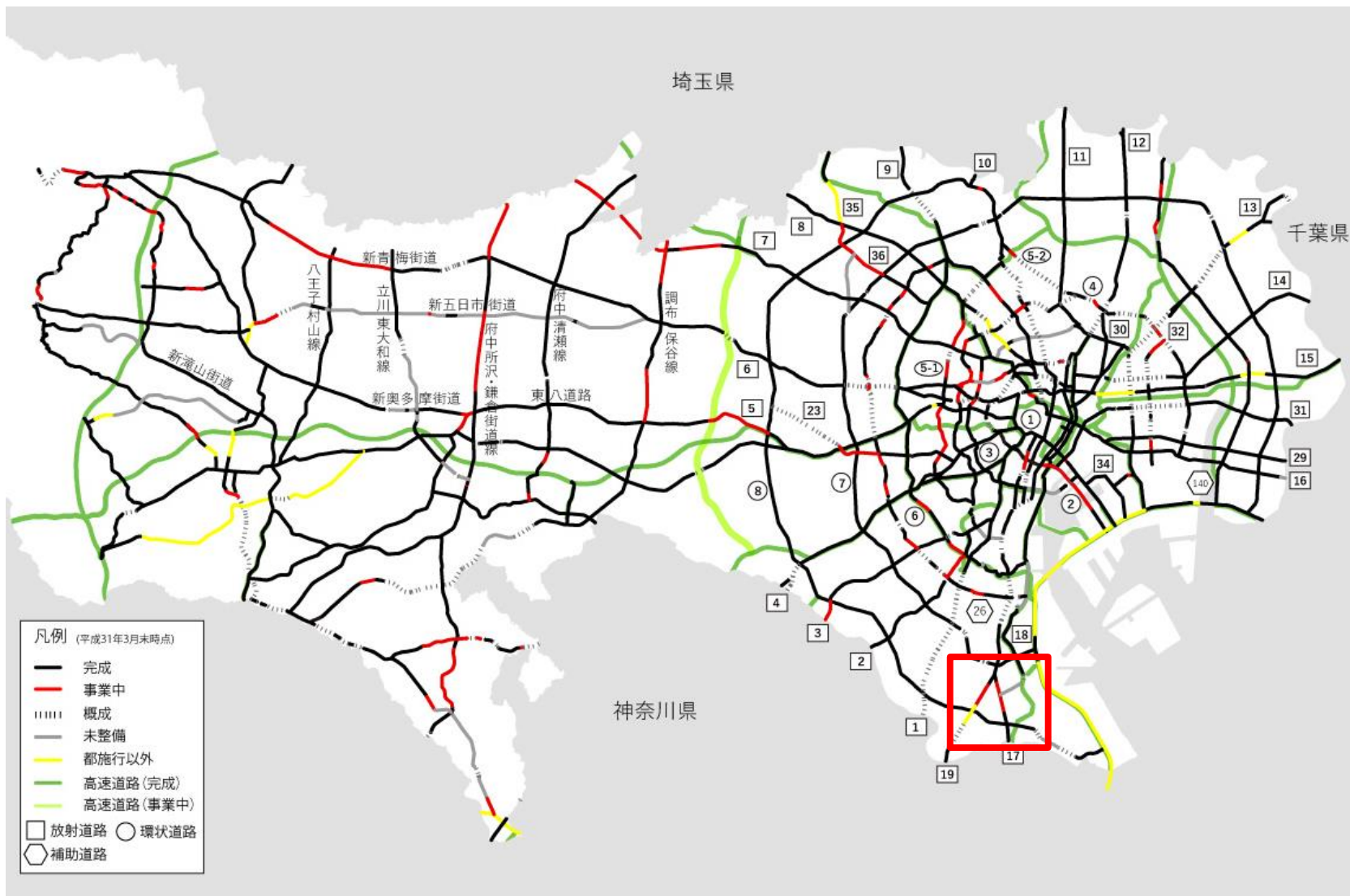
令和元年6月24日(月)
建設局道路建設部

目次

1. 事業概要	1
2. 社会経済情勢等の変化	9
3. 事業の投資効果	10
4. 事業の進捗状況	15
5. 事業の進捗の見込み	18
6. コスト縮減等	19
7. 対応方針(原案)	20

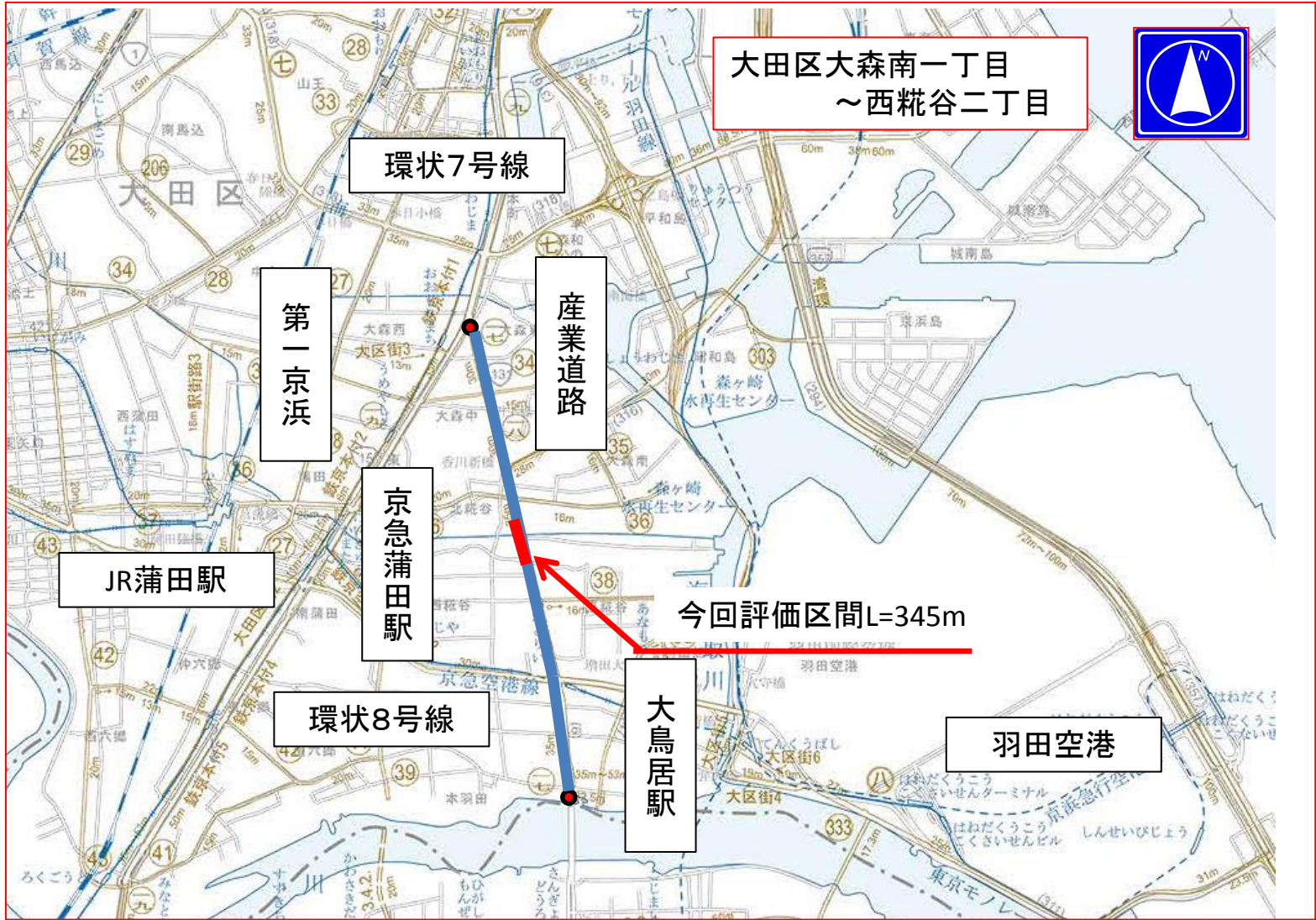
1. 事業概要

位置図



1. 事業概要

位置図



1. 事業概要

事業期間

平成12年度～令和元年度

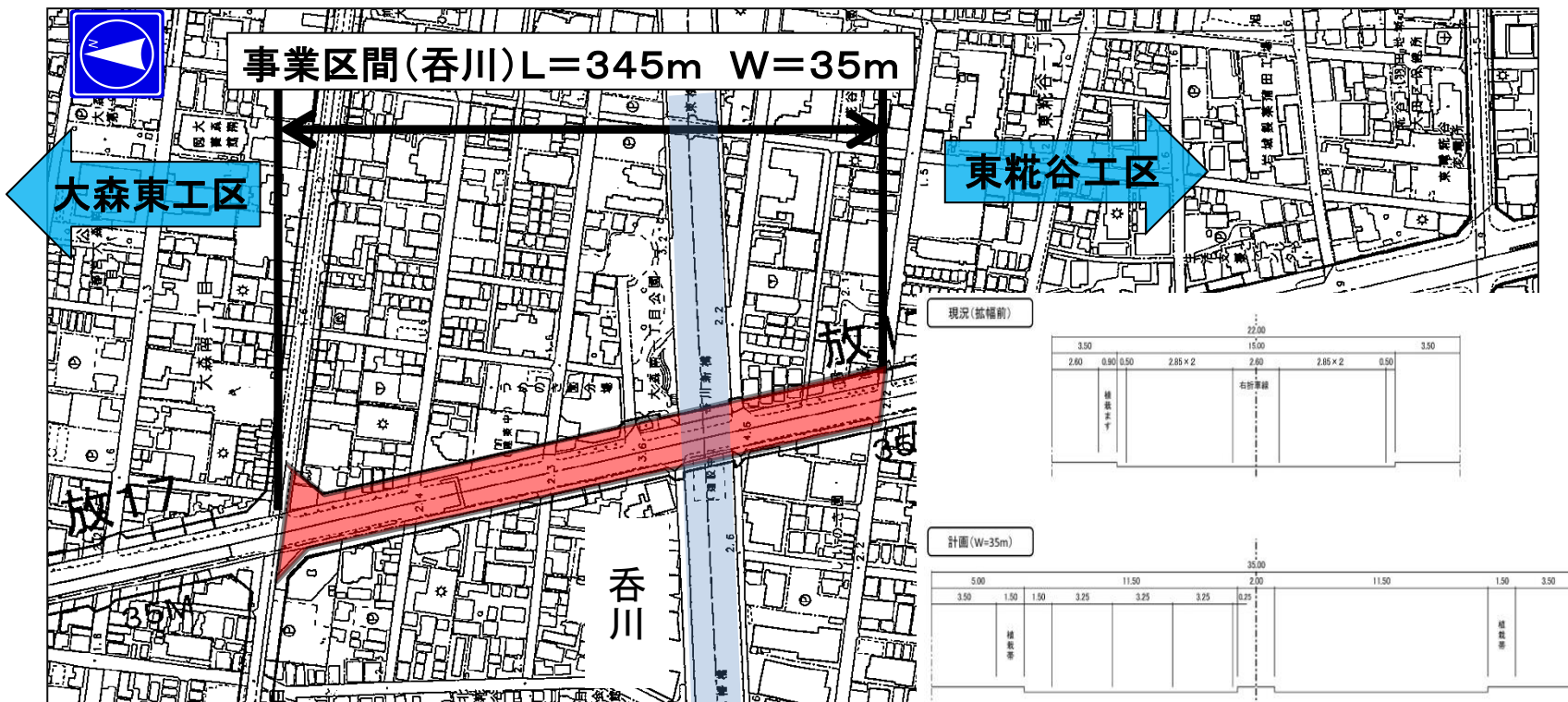
事業の概要

- ・放射第17号線は、大田区大森東二丁目から、羽田二丁目に至る延長約3.5kmの都市計画道路であり、神奈川県と都心部を結ぶ交通需要に対し、円滑化を図り交通渋滞を解消するための骨格となる路線である。
- ・本事業により、交通渋滞の解消を図り、物流の確実性や定時性を確保するとともに、地域の利便性の向上が図られるほか、安全で快適な歩行空間の確保が図られる。

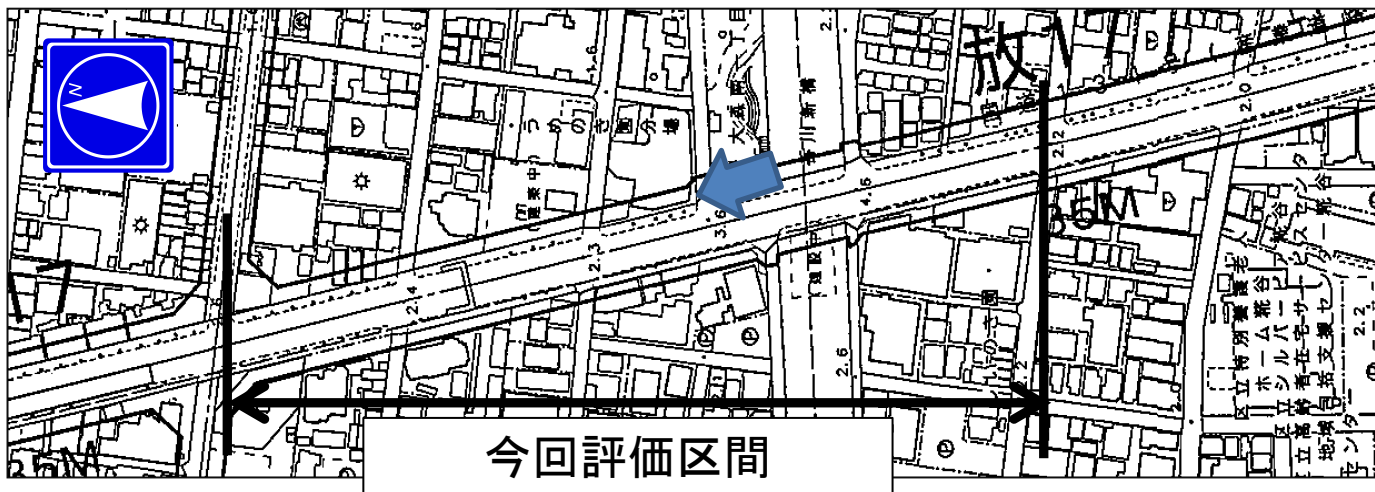
1. 事業概要

事業の概要

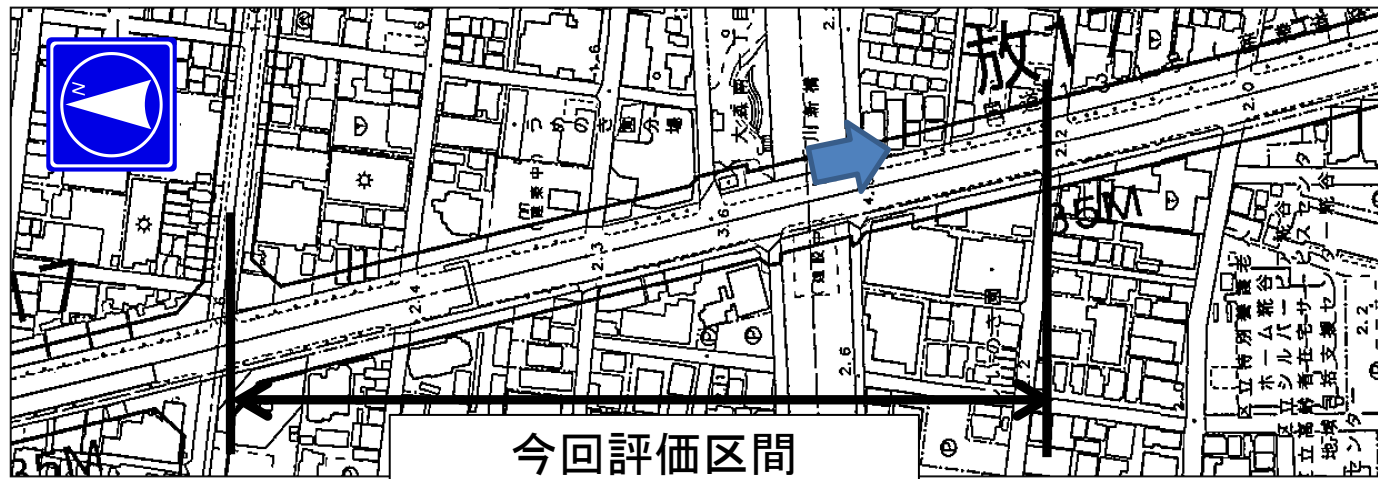
本路線は大田区大森東二丁目を起点とし、同区羽田二丁目を終点とする、延長約3.5kmの都市計画道路であり、当該区間は呑川を中心とした南北合わせて延長約345mの区間である。



1. 事業概要



1. 事業概要



1. 事業概要

経緯

年度	計画等
昭和21年3月26日	都市計画決定
平成12年11月17日	事業認可取得
平成32年3月31日	事業認可期間
令和元年度	事業認可変更予定

2. 社会経済情勢等の変化

社会経済情勢の変化

本路線周辺の平成27年度の現在交通量は、平成22年度と比較しても、ほとんど変化していない。

現況自動車交通量【都道131号】(道路交通センサスによる)
平成22年度: 25,103台/12h 平成27年度 23,394台/12h

事業を取り巻く状況の変化

当該区間は羽田空港へのアクセス道路となっており、平成22年10月に羽田国際空港の新国際旅客ターミナルが開業したことで、物流や空港利用者の交通が非常に多くなった。

3. 事業の投資効果

定量的効果

【便益(B)の算定】

現在価値化総便益額	285.7億円
走行時間短縮便益	258.1億円
走行経費現象便益	25.1億円
交通事故減少便益	2.5億円

【費用(C)算定】

現在価値化総費用額	181.4億円
工事費	137.0億円
用地費	41.8億円
維持管理費	2.6億円

※費用便益分析マニュアル(国土交通省 平成30年2月)に基づき分析

【費用便益比(B/C)の算定】

$$B/C = 1.5 \quad (\text{前回評定時} B/C = 2.2)$$

3. 事業の投資効果

定性的効果

- 1、交通渋滞の解消
- 2、物資流動円滑化への寄与
- 3、都市景観の向上
- 4、バスの定時性
- 5、交通事故の減少
- 6、緊急車両の走行
- 7、延焼遮断
- 8、バリアフリー化
- 9、公共施設へのアクセス向上
- 10、迂回交通の減少
- 11、自転車や歩行者のための空間確保

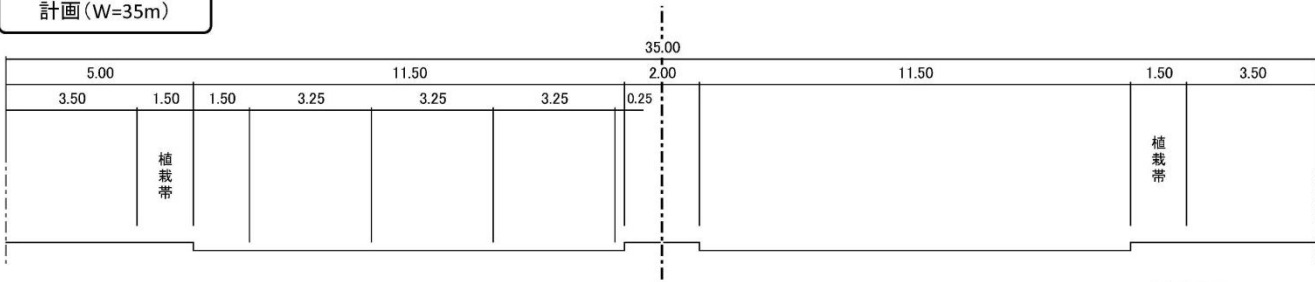
3. 事業の投資効果

定性的効果

2、物資流動円滑化への寄与



計画 (W=35m)

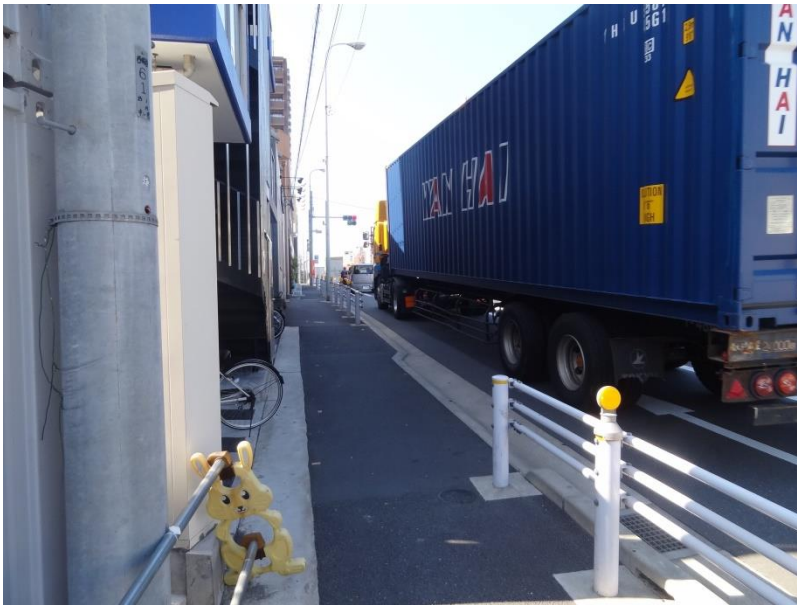


3. 事業の投資効果

定性的効果

11、自転車や歩行者のための空間確保

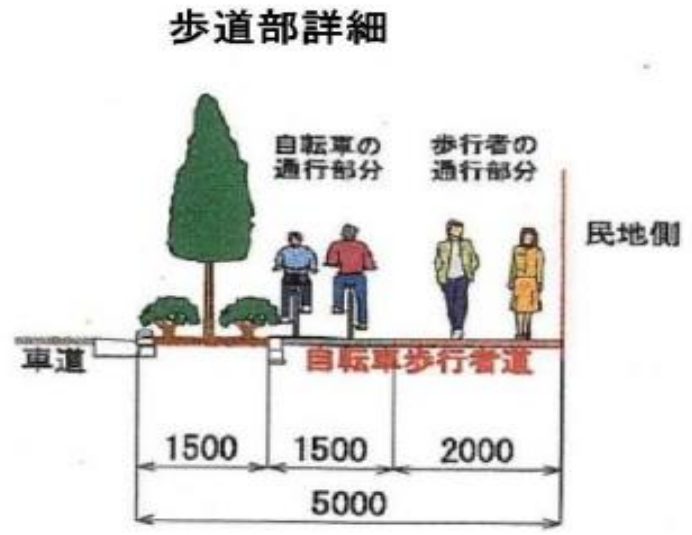
※現況写真



3. 事業の投資効果

定性的効果

11、自転車や歩行者のための空間確保



※完成イメージ

安全で快適な歩行空間となる

4. 事業の進捗状況

平成30年度末時点

事業費の執行状況

	用地費	工事費	合計
全体事業費	4182百万円	8820百万円	約13000百万円
執行済額	4137百万円	5046百万円	9183百万円
執行率	98.9%	57.2%	約70.6%

用地取得状況

取得予定面積 (A)	既取得面積 (B)	用地取得率 (B/A)
3,815m ²	3,765m ²	98.7%

4. 事業の進捗状況

一定期間を要した背景等

- ・一部の用地取得に時間を要したが、平成30年度末時点で約99%の用地取得となっている。
- ・今年度は引き続き、橋梁の工事に取り掛かる予定。

事業の進捗状況

一部橋梁工事に着手しており、交通切り替えを行いながら順次工事を進めている。

4. 事業の進捗状況

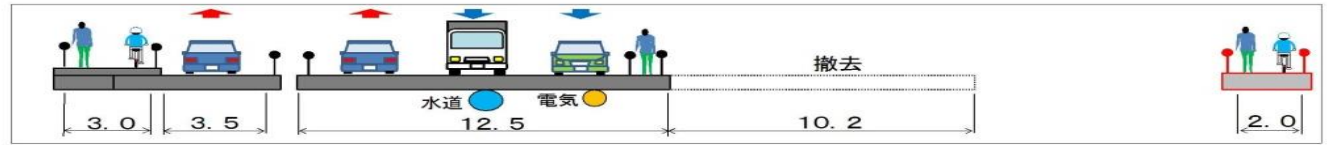
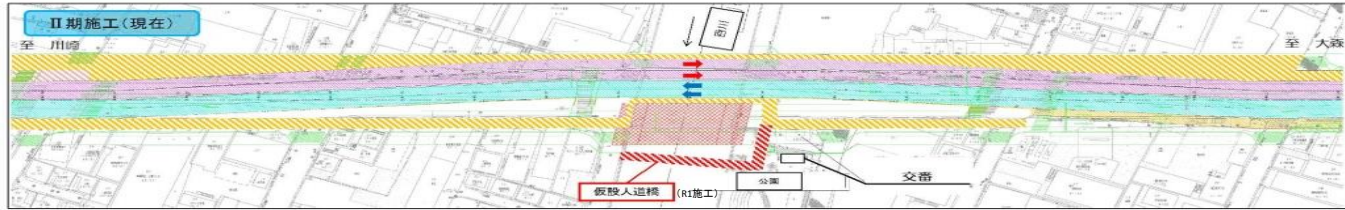
事業の進捗状況



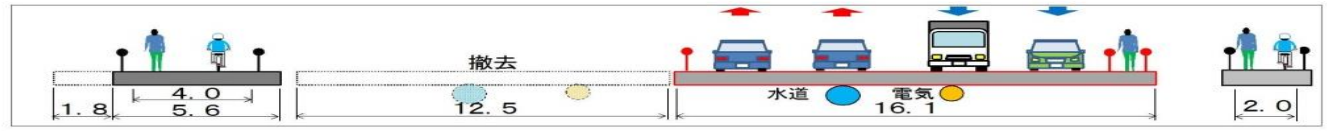
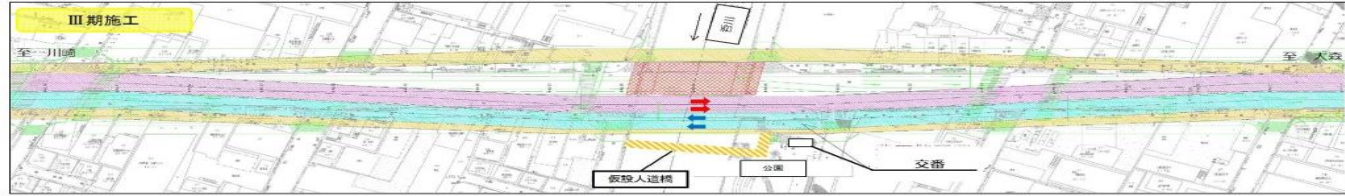
5. 事業の進捗の見込み

今後の事業の進捗見込み

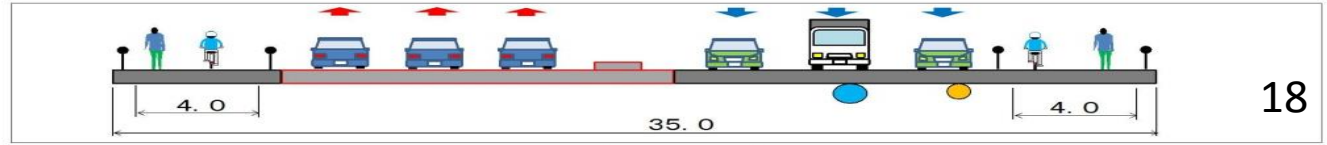
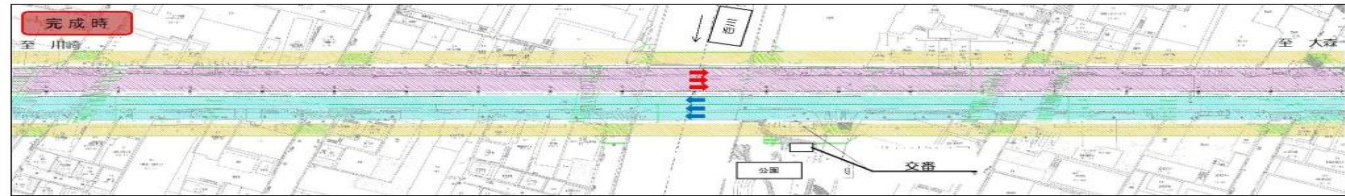
平成30年度末



STEP II



STEP III



6. コスト縮減等

新工法、事業手法、施工規模等の見直しの可能性

- ・工事については大部分が街路築造工事であり、一部の橋梁工事が完了しているため施工にあたっては、新工法を採用する余地は極めて少ない。
- ・すでに用地は99%取得しており、今後施行する内容は街路築造工事であるため、事業手法、施設規模等を見直す可能性はない。
- ・施工にあたっては建設発生土の再利用や再生材の使用を行っている。

7. 対応方針(原案)

- 本事業は区部放射方向の骨格幹線道路であり羽田空港へのアクセス道路として利用されていることから、本事業により道路交通の円滑化が図られる。
- 本事業区間の整備により、交通渋滞の緩和、防災性の向上、安全で快適な歩行空間の確保など十分な整備効果が期待できる。
- 中止の場合は、上記事業効果を発現できないだけでなく、これまでの投資に見合った整備効果も得られなくなる。



継 続